



救急・総合診療科



当院における救急・総合診療科への診療科名の変更について

日本社会における急速な高齢化により、複数の合併疾患や様々な経済的、社会的背景を持つ患者が比較的都会である神戸市でも増加しており、日本の各地域でその傾向はますます進んでいくことが予想されます。一方、これまでの医療教育体制は急激な

医療の進歩と専門性重視により臓器別診療の傾向に偏り、地域患者のニーズには合わず、かかりつけ医としての初期対応や入院後の診療に適切に対応できる総合的な診療能力を有する医師の育成が地域の健康・福祉の増進を図るためには急務となっております。



このような現状の中、地域の患者を地域で見守る総合的な診療能力を有する医師が必要であります。当院では、急性期病院として、これまで救急科の医師を中心に救急患者のトリアージと初期対応を行い、地域のニーズにお応えしようと考えていました。しかし、救急外来および救急科としての診療には限界があり、人員不足も大きな制限となっております。そのため、当院では神戸掖済会病

院総合診療専門研修プログラムを作成し、専攻医と協力しながら、いわゆる総合診療としての診療に幅を持たせて、地域医療に取り組んでいきたいと考えました。幸い2人の専攻医が参加してくれることとなりました。まだまだ未熟ではありますが、今後診断・治療能力を高め、

総合診療専門医として活躍できるように育成していきたいと考えております。これに伴い救急科を救急・総合診療科と科名を変更し、その他の専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的として研修を行ってもらう方針としております。まだまだ未熟なところもあるかと思われませんがよろしくご鞭撻、ご指導いただきたくお願い申し上げます。

神戸掖済会病院 院長 藤 久和

この度救急・総合診療科の後期研修医として働くこととなりました松浦 一義（まつうら かずよし）と申します。初期研修も当院で行ってましたので、知っている方も知らない方もおられると思いますが、再び自己紹介させていただきます。



生まれは兵庫県小野市で、出身校は徳島大学医学部です。現在の趣味は、筋トレとゴルフなどのスポーツと美味しい物を食べる事です。大学時代はロードバイクで徳島の山を登って、美味しい物を食べに行っていました。田舎ですが、ご飯も美味しく自然豊かで、少し離れば山も海もあり良い所でした。

初期研修も終わり、私が目指している医師像は重症も診れる総合診療医です。少しでも出来る事を増やし、医者として戦力になれるように頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

救急・総合診療科 松浦 一義

この度神戸掖済会病院初期研修プログラムを終え、引き続き神戸掖済会病院で救急科所属となり、総合診療専門医プログラムを専攻いたします新井 啓之（あらい ひろゆき）と申します。この初期研修の2年間では各科の先生方にお世話になり、医師として基本的な知識や手技を学ばせて頂きました。これからの3年間は慣れた環境ではありませんが、後期研修医としてもう一度気を引き締めて日々の診療に取り組む所存です。



救急科でたくさんの症例を研究し、臓器横断的に多角的な診療が出来る医師を目指し、地域医療に貢献して参りたいと思っております。まだまだ未熟でご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

救急・総合診療科 新井 啓之

新入医師 紹介 宜しくお願い致します



令和3年4月より赴任いたしました循環器内科部長の伊達 基郎（だて もとお）です。私は平成5年に大阪大学を卒業し、阪大病院、大阪府立病院（現大阪急性期総合医療センター）で研修を行った後、9年間基礎研究を行っていました。米国留学を経て平成16年から大阪の桜橋渡辺病院で再度臨床の道に入り、循環器診療一般、特に冠動脈、末梢動脈のカテーテルインターベンションを専門に行っております。平成26年から6年間国立病院機構大阪医療センターで診療を行い、本年より神戸掖済会病院にお世話になることになりました。

日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）専門医を取得しておりますので、当施設はCVIT研修関連施設となる予定です。これまで当院では行っていなかった冠動脈石灰化病変に対するロータブレードなども行う事が可能となり、慢性完全閉塞を含めた冠動脈複雑病変の治療にも対応して参ります。

趣味は若い頃にやっていたランニングを数年前に再開したところで、関節を痛めないようにゆっくりとマラソンやトレイルランを楽しんでいます。どうぞよろしくお願い致します。

循環器内科部長 伊達 基郎



今年4月に入職しました初期研修医の近藤 怜央（こんどう れお）です。神戸市出身で出身大学は岡山大学です。

趣味は野球観戦とドラムです。好きな球団は阪神タイガースです。大学時代は年に数回しか試合を見に行くことができなかったのですが、今年からは有難いことに地元で働けるので、甲子園で阪神タイガースの優勝と日本一を見届け、道頓堀に行きたいです。ドラムは長い間バンドとしては活動していませんが練習はしています。好きなバンドはdream theaterです。

今年から初期研修医として、3か月間循環器内科でお世話になっておりました。入院病棟管理や投薬方法など心疾患以外でも医師としての基本的な考え方や動き方を教わることができました。しかし未だ自身の至らなさ故に先生方やメディカルの方に迷惑をかける事が多いです。しかし皆様から多くのことを学び、吸収していくことで少しでも早く地域の医療や病院に少しでも貢献できる医師になれるよう努力してまいります。何卒皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



神戸掖済会病院で初期研修医1年目として働いております。丸尾 英作（まるお えいさく）です。

幅広く患者を見られる医師を目指して、神戸掖済会病院では様々な症例、手技を学んでいきたいと思っています。

機会がございましたらご指導のほど何卒宜しくお願い致します。

私事ですが出身は兵庫県の朝来市という所です。一時期地元の竹田城が天空の城などと有名になった市です。昔は年間観光客数が1万人程しかおらず、遠足で行くと石垣も登り放題くらいのものでした。有名になってからは麓に観光客向けの飲食店なども増え、帰省した時にはそこで食事するのが楽しみになっています。

生い立ちに話を戻しますと、中学校を卒業して京都府舞鶴市や神戸市、京都市などを転々としながら学生生活を送り、5年ほどコンピュータ関係の仕事をしたのち医学部を受験して現在にいたっております。

そのため(?)研修医と言いつつ同い年の妻と二人の子供がおります。家族とは年に1、2回東京ディズニーリゾートに行くのが生き甲斐なのとお互いの実家に月に1、2回帰って家事を全部やってもらうのが楽しいです。夫婦共働きでなかなか忙しい家庭と新しい仕事に頑張っていきたいです。





村岡修実

この度、神戸掖済会病院の初期研修医として働くことになりました。村岡修実(むらおか しゅうじ)と申します。

出身高校は須磨学園高校、大学は岡山大学です。大学時代は一般学部に交じりボクシング部に所属し主将を務めていました。

そういったこともあり、格闘技(特にボクシング)を観戦することや、実際に格闘技をすること好きです。

まだ慣れないことが多く、至らない点も多いですが、地域の医療や病院に少しでも貢献できる医師になれるように努力して参りますので、何卒皆様のご指導を頂ければと存じます。宜しくお願い致します。



門口佳乃子

はじめまして。神戸掖済会病院研修医1年目の門口佳乃子(もんぐち かのこ)と申します。生まれも育ちも沖縄県で、琉球大学を卒業後こちらに参りました。中学高校では女子バレー部に、大学では熱帯医学研究会に所属していました。

熱帯医学研究会では、タイのチェンマイ大学病院に1週間お世話になり、現地の学生と混じり実習を行いました。神戸に住み始めてそろそろ3か月ほど経ち、やっとこの環境に慣れてきたところです。この3か月は救急科で様々な症例を経験させていただき、毎日充実しておりとても勉強になりました。これからも積極的にたくさんの経験を積み、精進していこうと思います。私の目標は医師として、患者さんの心に寄り添い耳を傾け、患者さんの人生を豊かにするお手伝いができるようになることです。まだまだ慣れない事もあり、ご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、一生懸命頑張りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



臨床工学部 業務体制のご案内



われわれ神戸掖済会病院臨床工学部は2021年4月より土曜日祝日を含む、24時間365日の業務体制をスタート致しました。メンバーは20代新卒から40代中堅の10名で業務に当たっております。夜勤帯の主な業務は緊急の心臓カテーテル治療、脳血管造影、脳血管血栓回収、術中モニタリング、血液浄化業務、PCPSやLABPなどの高度医療機器の取り扱い、ME機器管理(返却・定期点検)などを行っております。業務によっては清潔操作にて医師のセカンドに付き介助業務を行ったり、外回りのME機器操作や患者移動、血圧計、心電計の装着など看護師サポートを行っております。

また、ICUではME機器の管理はもちろんの事、呼吸器の取り付けや患者搬送サポート、採血サポート、体位変換など出来る限りの業務を行い、医師や看護師の業務負担軽減に取り組んでおります。

最近ではCOVID-19に罹患した患者さんを受け入れている病棟にて、PPE実施のもと、呼吸器や生体情報モニターの装着、Aラインの接続、患者移動介助、人工透析治療、CHDF、ME機器管理なども行っております。

臨床工学技士の24時間体制は始まったばかりで行き届かない部分も多く、他職種との連携が上手く行かない場合もあり、まだまだ課題も多いです。本格的に軌道に乗るまでもうしばらく時間が掛かりそうですが、地域の患者様の為に、地域医療に貢献出来るようこれからも精進していきたいと思っております。

主任臨床工学技士 鼻 雅之



外来化学療法室は、2005年6階南病棟の特別室を使用して開設されました。2009年には病棟の個室3室の改装と同時に、抗癌剤を調剤するための安全キャビネットが薬剤部内に設置されました。2021年3月には、外来化学療法室が6階から2階外来フロアへ移動しました。これまでは診察後に2階から6階へ移動しなければならず、患者さんにはご不便をおかけしていました。2階の中央処置室の隣に移ったことで、患者さん、スタッフともに使いやすい環境になりました。

また外来化学療法室内に、ウィッグの見本や補正下着などのパンフレットを揃え、他人の視線を気にせず、実際に触れていただけるミニ展示コーナーを作りました。展示の中には、ボランティアの方が作成した脱毛患者さんに使用していただくタオル帽子や、乳房切除後に使用していただく手編みパット、ケア帽子なども置いています。

当院は主に大腸がん、乳がん、胃がんに対する抗がん剤治療を行っています。診察の介助から治療中の観察、副作用に対するセルフケアや日常生活の指導など、医師をはじめ、薬剤師、栄養士、看護師との連携を図っています。

これまでは入院して行われることが一般的だったがん化学療法も、最近は外来での治療に変わってきています。新しい抗がん剤の開発や副作用などのコントロールが可能になってきたことが背景にあります。また社会生活を送りながら治療を受けたいと考える患者さんの意識変化もあると思われます。私たちはそんな患者さんの思いやQOLの向上のために、多職種全体でサポートしていくよう日々努めています。



化学療法室 スタッフ一同



〒655-0004
神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号
TEL: 078-781-7811 (代表)
FAX: 078-781-1511
<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>